

# I げんざい 現在 し を知る



あさぎり ふうけい もとちゅうるい  
朝霧の風景（元忠類）

# プ ロ ロ ー グ I

むかしむかし大むかし、海へと連なる丘の一つにナウマン象の群れが暮らしていました。食糧となる草や木の実がふんだんにある訳ではありませんでしたが、小さな群れが暮らしてゆくには十分でした。

ある日、丘のふもとの沼にみんなで水を飲みに行った時のことでした。一頭の子象が沼のほとりで足をすべらせ、沼にはまってしまいました。

「お母さん 助けて！」

母親は子象の鼻に自分の鼻を差し出しますが、母親の鼻はなかなか届きません。

「お父さん、ハナコが…。」

母親は少し離れたところにいた父親を呼びます。群れのリーダーでもある父親は、やはり子象の鼻に自分の鼻をからませて子象を引き上げようとします。子象も沼の中で足を運ぼうと必死にもがきます。

もう少し、もう少し…。子象の足が一步動いた時、今度はふんばっていた父親が足をすべらせました。父親は体が大きい分、ずるずると沼に引き込まれていきます。もがけばもがくほど深くはまってしまいます。やがて完全に足をとられて父親は沼の中に倒れてしまいました。群れの象たちは右往左往するばかりでなすすべを知りません。

父親は観念しました。自分はもう助からない。

「ハナコ、父さんの体にすがり、父さんを踏み台にして岸に上がるんだ！」

父親の必死の声を頼りに子象は父親の体にすがり、それを踏み越えて群れの象たちが差し出す鼻に引かれて岸に上がることができました。

沼を振り返ると、倒れた父親がゆっくりと沼に沈んでいくのが見えました。

「お父さん…。」

父親は思いました。

(ハナコ悲しんではいけない。お前が無事なら父さんはどうなってもいいんだ。振り返れば、苦しみもまた喜びも多い暮らした。日照りの夏も、物みな凍てつく冬も、みんなで体を寄せ合せて、何でも分け合って暮らしてきた。ハナコ、丈夫に育ってくれ。みんなよろしく頼むぞ。)

倒れた体が水面から消えようとした時、父親は頭をもたげて一声

「パオーッ」

と鳴きました。それは別れの声とも、ハナコへの励ましの声とも聞こえました。

不幸な事故でした。

その後この象の群れがどのように暮らしていったかは知る事ができません。

そして、いくたびもいくたびも星はめぐり、風が吹き抜けていきました。



「ナウマン象の親子  
(ナウマン象記念館前)」

\* この物語はフィクションです。忠類ナウマン象の研究の詳細については、P. 64~72 をご参照ください。

# I 現在を知る

## 1 地形・地勢、四季、人口

### (1) 丸山から

丸山の標高は271mです。

このようにこの山を数字で表すとさほどの数字ではありません。しかし、数字以上に価値がある山と言えます。それは開拓の時代から始まり、そして現在に至るまで、この山こそが忠類で過ごす人々のランドマーク（象徴）として存在しているからです。

まず、丸山に登ってみましょう。麓から山道を

1. 8 kmほど上って行くと山頂に着きます。山頂には丸山神社の小さな祠と展望台があります。それでは、5 mほどの高さの展望台に登ってみましょう。ここが忠類地域で一番高い地点です。ここからは忠類地域の地形がよく分かります。まず正面、南を臨むと、雄大な日高山脈を背景に忠類の市街地が広がっている様子が一望できます。次に、東に目をやると遠くの小高い山々の手前に平地が見えます。南東には白銀台スキー場の山から共栄牧場の丘まで小高い山や丘が連なっている様子がよく分かります。そして、西には広く平地が広がっています。

丸山からの眺望を元に、忠類地域の地形をまとめてみましょう。北は明和の小高い山々の西側に駒島、弘和の平地が広がっています。北から東にかけて小高い山や丘の手前に元忠類、新生、中当、古里、東宝の平地が広がっています。南と西には公親、協徳、朝日、日和、西当の平地が広がっています。このように、忠類地域は、北と東の小高い山と丘に平地が囲まれている地形と言えます。

なお、丸山については、「II 過去を学ぶ」の“丸山黄金伝説”のコラムでも触れることにします。

### (2) 地質図・地形図を持って

地質図や地形図を持って、忠類地域を歩いてみましょう。

まず、丸山展望台から平地に見える地区を歩いてみましょう。実際には数mの起伏があることに気づきます。そこで、忠類総合支所（標高86m）を起点0として標高で調べてみます。忠類総合支所から南へ向かってみましょう。忠類栄町（標高92m）、



「丸山にさす  
エンジェルラダー」



「朝焼けの忠類市街  
(丸山展望台より)」

道の駅忠類（標高91m）とプラス5mほど、南端の共栄の最低地ではマイナス10mとなっています。数mの起伏はありますが、全体に南方向に傾斜しています。さらに国道236号線で大樹町役場（標高64m）まで足を延ばすと、マイナス22mと南への傾斜は続いています。次に、北西方向（更別村方向）へ向かってみましょう。忠類坂と呼ばれる急な坂があります。その坂を上りきって更別村との境界地点（標高170m）はプラス84mも高くなっています。次に、南西方向へ向かってみましょう。支所から西当神社（標高137m）までは50mほど高くなっています。大樹町につながる平地のように見える地区は、大きく西方向へ高くなっています。このように丸山展望台から平地のように見える地区は、数mから数十mの起伏を有しながら、全体には南方向へ傾斜しています。これは、太平洋に向かって扇状地の地形となつて広がっているからです。

今度は、山や丘のように見える地区へ向かってみましょう。白銀台スキー場（標高207m）の山から共栄牧場（シーニックカフェ標高189m）の丘は、地質学上は豊頃丘陵（南北性の背斜構造：豊頃ドーム）の忠類背斜と呼ばれる部分です。豊頃丘陵は、約90万年前に豊頃町から大樹町にかけて浅い海底であった部分が隆起してできたと考えられています。丘陵の最も高いところでも標高331mで、ゆるやかな丘陵地となっています。このゆるやかな形状は、約1,000万年前の火山活動でできた岩盤の上に、数百万年もの間、海底で砂岩や泥岩等が堆積したためです。このような形成の歴史から、地層がむき出しになっている箇所では海生生物の化石を観察することができます。

最後に、地中深くに目を向けてみましょう。前述のように、忠類地域は海底部分が隆起した丘陵地に土砂が流れ込んだ扇状地です。非火山地域ですので、天然に湧き出る高温の温泉はありません。丸山の麓のナウマン温泉の源泉は、1,206m掘削することで地下深部の深層熱水と呼ばれる低温の水を汲み上げています。泉質はアルカリ性でpH9.3〔平成4（1992）年3月の北海道立衛生研究所の調査による。〕です。これは火山岩類の変質と関わっているためと考えられています。

### (3) 四季

#### ア 春

根雪が残る人通りの少ない場所に真っ先に花を咲かせるのが福寿草（キタミフクジュソウ）です。その後、地域全域にフキノトウが花を咲かせます。このフキノトウが花を咲かせる頃が、動植物が一斉に活動を始める頃です。時を同じくして、土の凍結が溶けた地域各所の農地では、農家のみなさんが耕起を始められます。各種の作物を植え付ける最盛期の幕開けです。忠類地域特産の「百合根の春掘り」も始まります。気温は、5月の声を



「可憐な福寿草」

聞いても、朝晩はまだまだ低く、各家庭ではストーブの暖気に頼る日もあります。また、ドライフェーン（日高山脈や十勝連峰から吹き降りた季節風）と呼ばれる乾燥した強風が吹く日があるため、昇温効果で突発的に25℃を超す高温日になることがあります。



「百合根の春掘り」

## イ 夏

忠類地域の夏は、内陸性気候と海洋性気候の両方の気候の特徴を体感することができます。内陸性気候としては、山々に囲まれているために30℃を超す高温日が続く時があります。海洋性気候としては、太平洋からの南寄りの風が吹くと霧が発生する時があります。特に朝方に霧が発生しやすい傾向にあります。最高気温が高い日があっても、湿度が低いので過ごしやすい毎日です。

6月になると、牧草地ではモア（大型の刈り取り機）が一番牧草を刈り取りま



「当縁川のヤマメ釣り」

す。刈り取った牧草はハーベスターが短時間に細断して運搬用トラックに載せます。牧草地を走り回るモアやハーベスターはこの時期の風物詩と言えます。

気温の上昇と共に、河川の水温が上がり、魚が活発に動くようになります。7月1日にはヤマメ釣りが解禁されます。地域のみなさんだけでなく、他市町村からもたくさんの方が当縁川を訪れます。

## ウ 秋

8月上旬までは猛暑日や真夏日を記録する日がありますが、お盆を過ぎると、一気に気温が低下（8月上旬の最低気温21～23℃、8月下旬の最低気温12～14℃（2021年））し始めます。この気温の低下は、8月下旬には草木の秋枯れを進めます。9月半ばになると木々の紅葉をいたるところで楽しむことができます。特に、雄大な日高山脈を背景にしてパッチワークのように広がる畑の風景は、忠類を代表する素晴らしい風景の一つと言えます。



「秋の風景

（共栄の丘より）」

そして、秋は何と言っても実りの秋です。夏に小麦の刈り取りが収穫の先陣を切り、それに続き、トウモロコシ、百合根、ジャガイモ、豆類、ビート（甜菜）、長芋と、11月まで収穫が行われます。牧場では、二番牧草・三番牧草、デントコーンの収穫が行われます。農家のみなさんのこれまでの努力に対して、大地から素晴らしい贈り物が届けられる季節です。

## エ 冬

忠類地域の冬は、氷点下と白銀の世界です。シベリア高気圧（大陸性寒冷高気圧）におおわれて、最低気温が氷点下20℃を下回る日があり、一日の温度差が20℃



「冬の風景」

「ナナカマド」

以上になる日も珍しくありません。また、雪雲が日高山脈で遮られるので日本海側に比べて積雪は少なく十勝晴れと呼ばれる空気が乾燥した晴天が続きます。

たくさんの人が訪れていたナウマン公園、キャンプ場、パークゴルフ場は、11月上旬に閉鎖されます。

この時期から約5か月半もの間、低温の白銀の世界に閉ざされます。

### (4) 人口

現在入手できる人口についての正確な記録は、昭和24（1949）年8月20日に大樹村から忠類村が分村した2年後に刊行された開村二周年記念の忠類村勢要覧です。



「忠類村勢要覧」

それによると、開村時の世帯数は534戸、人口は3,130人です。そして、昭和25（1950）年以降は、忠類村史に記載されている右の表でその推移を知ることができます。世帯数と人口のそれぞれのピークは、世帯数は平成31（2019）年の778戸、人口は昭和32（1957）年の3,770人です。人口はこの昭和32年を境に減少が続いています。

なお、忠類地域の最新の世帯数と人口は、世帯数が750戸、人口が1,405人です。〔令和5（2023）年3月31日現在〕

人口の推移 (単位:世帯,人)

年	世帯数	人口	調査名	世帯数	人口	調査名
昭和25年				556	3,246	(国勢調査)
30年				641	3,634	(国勢調査)
32年	632	3,770	(住基台帳)			
33年	629	3,749	〃			
34年	628	3,737	〃			
35年	664	3,649	〃	674	3,565	(国勢調査)
36年	677	3,606	〃			
37年	682	3,520	〃			
38年	674	3,439	〃			
39年	668	3,372	〃			
40年	671	3,328	〃	687	3,430	(国勢調査)
41年	669	3,247	〃			
42年	672	3,104	〃			
43年	666	3,008	〃			
44年	663	3,006	〃			
45年	662	3,001	〃	637	2,608	(国勢調査)
46年	638	2,712	〃			
47年	642	2,643	〃			
48年	634	2,585	〃			
49年	624	2,519	〃			
50年	625	2,477	〃	647	2,415	(国勢調査)
51年	621	2,468	〃			
52年	621	2,422	〃			
53年	620	2,411	〃			
54年	622	2,370	〃			
55年	632	2,372	〃	658	2,306	(国勢調査)
56年	649	2,361	〃			
57年	654	2,382	〃			
58年	659	2,353	〃			
59年	657	2,333	〃			
60年	657	2,315	〃	638	2,227	(国勢調査)
61年	652	2,288	〃			
62年	654	2,255	〃			
63年	655	2,207	〃			
平成元年	660	2,201	〃			
2年	656	2,144	〃	620	2,013	(国勢調査)
3年	657	2,103	〃			
4年	659	2,053	〃			
5年	663	2,012	〃			
6年	673	2,001	〃			
7年	664	1,972	〃	649	1,871	(国勢調査)
8年	669	1,913	〃			
9年	681	1,904	〃			
10年	674	1,851	〃			
11年	674	1,836	〃			

※住民基本台帳調査は12月末現在 国勢調査は10月1日現在

「世帯数と人口の推移 (忠類村史より)」

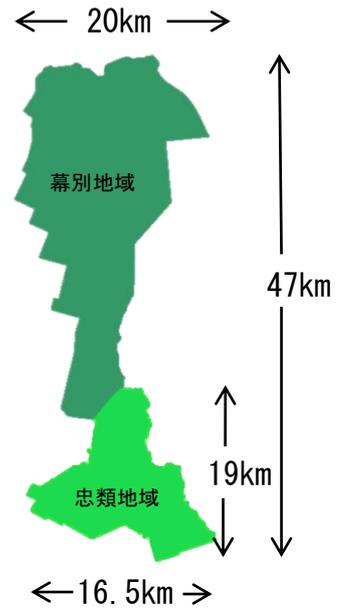
## 2 幕別町の中の忠類

### (1) 幕別町の三つの地区

平成18（2006）年2月6日、忠類村と幕別町が合併し、東西20km・南北47km、面積477.64km<sup>2</sup>の新しい幕別町が誕生しました。忠類村の面積が、137.54km<sup>2</sup>でしたので、忠類地域の面積は町全体の28.8%を占めることとなりました。そして、旧忠類村を忠類地域、旧幕別町を幕別地域と呼ぶようになりまし

た。

現在、幕別町は、三つの地区に分けられています。幕別発祥の地である幕別地区、帯広市のベッドタウンとして発展した札内地区、そして、忠類地区の三つです。この三つの地区の顕著な特徴は、人口・世帯数と土地の使い方です。札内地区には、人口で町全体の74%、世帯数で町全体の73%が集中しています。当然、土地の使い方はほとんどが宅地として使われています。それに対して、幕別地区や忠類地区は、人口・世帯数の割合は小さく、広大な農地が広がっています。なお、忠類地区は人口も世帯数も町全体の約6%です。〔令和5（2023）年3月31日現在〕



## (2) 幕別町の玄関

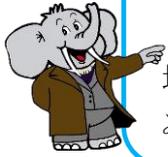
忠類地域を国道236号線が南北に貫き、その国道から北へ道道15号線（幕別大樹線）、北東へ道道319号線（生花大樹線）が伸びています。また、国道を北上し忠類坂を上りきり更別村に入ると、北へ道道238号線（更別幕別線）が帯広空港へ伸びています。そして、平成27（2015）年には、帯広尾自動車道（高規格幹線道路）の更別インターチェンジャー忠類大樹インターチェンジャー間が開通し、帯広市への移動時間が短縮されると共に、道東自動車道への接続が容易になりました。

このように忠類地域には、何本もの幹線道路が通っています。十勝南部と十勝中部を往来するには、必ず忠類地域を通らなければいけません。忠類地域は、十勝南部と十勝中部をつなぐ要所として、幕別町の玄関としての役割を担っています。



「忠類地域を上空南方から臨む」

# 簡単アイヌ語講座



忠類地域には、アイヌのみなさんの集落跡は発見されていないんだ。  
 アイヌのみなさんは、鎌倉時代には蝦夷地で狩猟生活をしていたようなんだ。  
 地域内にアイヌ語の地名が残っていることから、先人のみなさんが開拓に足を踏  
 み入れる前から、アイヌのみなさんはこの地域を往来していたんだね。

## 1 地形などを表す地名

ポ	口	大きい	ト	湖・沼	プツ	口
ポ	ン	小さい		キサラ	耳	
オン	ネ	老いる		ヤ	岸	
タン	ネ	長い		エトク	奥	
パ	ラ	広い		オロ	所	

ペツ 川、 ナイ 沢、 ビラ 崖、 オタ 砂浜、 ソ 滝

## 2 動物や植物に関する地名

ユク 鹿  
 イソポ うさぎ  
 チカプ 鳥  
 キト 行者ニンニク

## 3 人の暮らしに関わる地名

ル 道  
 ウシ いつもする  
 ク・オ 仕掛け弓・多くある  
 ウライ やな  
 チ・ノミ 我ら・祈る  
 ヌサ・オマ 祭壇・ある

「北海道博物館アイヌ民族文化研究センター編アイヌ文化紹介小冊子より」

## 4 忠類地域の地名

忠類… チウ・ルイ・トープイ 流れ・激しい・当縁川（支流）トープイが略されたんだ。  
 当縁… トー・パイ 沼・穴 当縁川の河口周辺の川筋の地名だったんだよ。  
 当縁の字があてられ、読みにくいので「とうべり」となったんだ。  
 丸山… チョマ・イワ 恐ろしい・山  
 岡田新三郎日誌には「深夜に異様な物音がする。この山に登ったアイヌが生きて戻った  
 ことがない。」とあるんだ。でも、その言い伝えがどうして生まれたかは分からないんだ。  
 チョマ・ナイ 恐ろしい・川 丸山の南東山麓付近から当縁川主流に注ぐ小さな川。  
 幌内… ポロ・ナイ 大きな・沢  
 東宝… 入植当時はシキ・リブ・ナイと呼ばれていたんだ。鬼ガヤ・生い茂る・沢  
 コイカクシュトープイ川… コイカ・クシュ・トープイ  
 東を・通っている・当縁川（元忠類の川）  
 アイボシマ川… アイブ・オシマ・プ 食べ物・入りくる・所（古里の川）  
 晩成… 依田勉三の晩成社の牧場があったのでこの地名がつけられたんだ。  
 「南十勝アイヌ語地名考（広尾町郷土研究会編）より」